

SYLLABUS

シ ラ バ ス

令和8年度後期

作業療法士科 3年次

医療法人社団 慈恵会

神戸総合医療専門学校

作業療法士科 教育課程（令和8年度後期）

3年次

科目名	単位数	時間数	年次	時期	科目名	単位数	時間数	年次	時期
心理学	2	30	1	前期	身体障害評価学Ⅱ	1	30	1	後期
倫理学	2	30	1	前期	身体障害評価学Ⅲ	1	30	2	前期
物理学	1	15	1	前期	精神障害評価学Ⅰ	1	30	2	前期
生物学	2	30	1	前期	精神障害評価学Ⅱ	1	30	2	前期
医学英語	2	30	1	前期	身体障害治療学Ⅰ	1	30	2	前期
保健体育	1	30	1	前期	身体障害治療学Ⅱ	1	30	2	前期
情報処理演習	1	15	1	前期	身体障害治療学Ⅲ	1	30	2	前期
人間関係論	2	30	1	前期	身体障害治療学Ⅳ	1	30	2	後期
キャリア教育Ⅰ	1	15	1	後期	身体障害治療学Ⅴ	1	30	2	後期
キャリア教育Ⅱ	1	15	3	前期	身体障害治療学Ⅵ	1	30	2	後期
解剖学Ⅰ	2	60	1	前期	身体障害治療学Ⅶ	1	30	2	後期
解剖学Ⅱ	2	60	1	後期	身体障害治療学演習Ⅰ	1	30	2	前期
解剖学演習Ⅰ	1	15	1	前期	身体障害治療学演習Ⅱ	1	30	2	後期
解剖学演習Ⅱ	1	15	1	前期	精神障害治療学Ⅰ	1	30	2	前期
解剖学演習Ⅲ	1	15	1	前期	精神障害治療学Ⅱ	1	30	2	後期
解剖学演習Ⅳ	1	30	1	後期	精神障害治療学Ⅲ	1	30	2	後期
生理学Ⅰ	1	30	1	前期	発達障害治療学Ⅰ	1	30	2	前期
生理学Ⅱ	1	30	1	後期	発達障害治療学Ⅱ	1	30	2	後期
生理学Ⅲ	1	30	1	後期	高次脳機能障害治療学	1	30	2	後期
生理学演習	1	30	1	後期	日常生活活動	1	30	2	前期
運動学	1	30	1	前期	老年期障害治療学Ⅰ	1	30	2	前期
運動学演習Ⅰ	1	30	1	前期	老年期障害治療学Ⅱ	1	30	2	後期
運動学演習Ⅱ	1	30	1	後期	義肢装具学	1	30	2	後期
人間発達学	1	30	1	後期	福祉用具学	1	15	1	後期
内科学Ⅰ	1	30	1	後期	作業療法臨床技能演習	1	30	2	後期
内科学Ⅱ	1	30	2	前期	生活環境学	1	15	2	後期
臨床心理学	1	30	1	後期	地域作業療法学Ⅰ	1	30	2	後期
精神医学Ⅰ	1	30	1	後期	地域作業療法学Ⅱ	1	30	2	後期
精神医学Ⅱ	1	30	2	前期	職業関連活動	1	30	2	後期
整形外科Ⅰ	1	30	1	後期	見学実習	1	45	1	後期
整形外科Ⅱ	1	30	2	前期	観察実習	1	45	2	前期
一般臨床医学Ⅰ	1	15	2	前期	臨床評価実習	3	135	2	後期
一般臨床医学Ⅱ	1	15	2	後期	臨床実習Ⅰ	9	405	3	前期
神経内科学	1	30	2	前期	臨床実習Ⅱ	9	405	3	後期
病理学概論	1	30	1	後期	地域実習	1	45	3	前期
小児科学	1	15	2	前期	作業療法特論Ⅰ	1	30	1	前期
臨床栄養学	1	15	2	前期	作業療法特論Ⅱ	1	30	1	後期
臨床薬学	1	15	2	前期	作業療法特論Ⅲ	1	30	2	前期
リハビリテーション概論	1	30	1	前期	作業療法特論Ⅳ	1	15	2	後期
リハビリテーション医学	1	15	1	前期	総合作業療法学演習Ⅰ	3	90	3	前期
社会福祉学	1	30	1	前期	総合作業療法学演習Ⅱ	3	90	3	後期
地域ケア論	1	15	2	前期					
作業療法概論Ⅰ	1	30	1	前期	パラスポーツ特論(選択科目)	1	15	3	後期
作業療法概論Ⅱ	1	15	3	後期					
基礎作業学	1	30	1	後期					
基礎作業学演習Ⅰ	1	30	1	前期					
基礎作業学演習Ⅱ	1	30	1	後期					
作業療法管理学Ⅰ	1	15	2	前期					
作業療法管理学Ⅱ	1	15	2	後期					
身体障害評価学Ⅰ	1	30	1	後期					

科目名		授業形態	担当教員名	
作業療法概論Ⅱ		講義・演習	嘉納 綾・井上 直樹	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	3 年次	後期
授業の目的・概要				
この授業では作業療法士として必要な調査・研究の意義と必要性を学ぶ。また、臨床実習での経験を発表することを通し、他者に分かりやすい資料作りやプレゼンテーションの仕方を学ぶ。さらに臨床実習での経験を踏まえた演習を通して臨床場面でMTDLPを実践的に使えることをめざす。				
授業の到達目標				
1. 作業療法における研究の意義を説明できる。 2. 他者に解りやすいプレゼンテーションを行う事ができる。 3. 実習で経験した対象者について生活行為アセスメント演習シートを作成できる。				
授業計画				
回	内容			
1	作業療法研究法：研究の基礎【井上】			
2	臨床実習での経験についての発表資料作り①：内容の整理と資料作成【井上】			
3	臨床実習での経験についての発表資料作り②：資料作成と発表準備【井上】			
4	発表会①			
5	発表会②			
6	MTDLP演習①：MTDLP各シートの記入方法について【嘉納】			
7	MTDLP演習②：臨床実習で経験した事例をMTDLPでまとめなおす【嘉納】			
8	MTDLP演習③： ” 【嘉納】			
成績の評価方法与基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題				
小テスト				
その他	100%	経験発表会のワークシート、MTDLPの演習結果プリントの内容で評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載	再試験は実施しない。			
教科書				
書名		著者・編集者名		出版社名
なし				
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名		出版社名
事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版		日本作業療法士協会		医歯薬出版
作業療法マニュアル75 生活行為向上マネジメント改訂第4版		日本作業療法士協会		日本作業療法士協会
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床実習Ⅱ		実習	嘉納 綾・岡田 誠暁 山本 翔太・井上 直樹・大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
405 時間 （ 9 単位）		回	3 年次	後期
授業の目的・概要				
1・2年生で学んだ知識、技術、技能、態度の統合を図り、作業療法実践能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、臨床教育指導者の指導・監督のもとで典型的な障害特性を呈する対象者に対して、作業療法士としての①倫理観や基本的態度を身につける、②許容される臨床技能を実践できる、③臨床教育指導者の作業療法の臨床思考過程を説明し作業療法の計画を立案できる、ことを目指す。				
授業の到達目標				
1.職業人として望ましい態度を身につける。 2.責任ある行動を身につける。 3.自己管理ができる。 4.意欲的に取り組む姿勢を身につける。 5.臨床教育指導者の監督・指導のもとで情報収集・面接・観察・検査測定ができる。 6.様々な手段で収集した情報を統合・解釈し、対象者の全体像を把握することができる。 7.臨床教育指導者の臨床思考過程を理解し、説明できる。 8.臨床教育指導者の監督・指導のもとで対象者への治療的介入を実施することができる。 9.管理および運営の補助ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	① 臨床実習			
2	1. 実習期間：6月～11月の9週間 （1日8時間×45日）			
3	2. 実習施設：病院、老人保健施設など学校が依頼し決定した施設			
4	3. 実習形態：同一施設で臨床教育指導者の指導のもと作業療法実践能力の基礎を身につける			
5	② 実習セミナーⅠ			
6	1人の対象者に関して実習で得られた情報を、治療後の変化点を含めて担当教員の指導のもとまとめる			
7	③ 実習セミナーⅡ			
8	実習セミナーⅠでまとめた対象者について症例報告書の形式で全体に発表する			
9	④ レポート作成			
10	臨床実習で経験した対象者の統合と解釈について、レポートを作成する			
11	⑤ 実習後面談			
12	⑥ 臨床実習後評価			
13				
14				
15				
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題				
小テスト				
その他	100%	実習内容、実習セミナーⅠ・Ⅱ、レポート、実習後評価で総合的に評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
令和8年度臨床実習の手引き（神戸総合医療専門学校 作業療法士科）				
自由記載				
備考				
実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため、感謝と礼儀を忘れないこと。日頃から健康管理につとめ、特に実習期間は健康に留意すること。麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎の抗体値が基準を満たしていることが、実習に参加する条件である。				

科目名	授業形態	担当教員名	
総合作業療法学演習Ⅱ	演習・講義	嘉納 綾・岡田 誠暁・山本 翔太 井上 直樹・大永 寛・中島 大輔・淡路 大致	
時間数（単位数）	授業回数	年次	開講時期
90 時間 （ 3 単位）	45 回	3 年次	後期
授業の目的・概要			
国家試験対策として、基礎医学・臨床医学・作業療法専門問題について、段階的に学習し、国家試験問題の解き方や自己学習の進め方を身に付けることを目指す。			
授業の到達目標			
1. 過去の国家試験問題の解剖・運動・生理学の範囲に関して、12月末までに概ね8割以上を正答することができる。 2. 過去の国家試験問題の専門基礎分野の範囲に関して、12月末までに概ね7割以上を正答することができる。 3. 過去の国家試験問題の全範囲で1月末までに概ね8割以上を正答することができる。			
授業計画			
回	内容		
1	国家試験対策：解剖学①（中枢神経）	31	国家試験対策：専門分野①（作業活動・作業療法概論）
2	国家試験対策：解剖学②（脳神経と脳血管）	32	国家試験対策：専門分野②（評価法・ADL）
3	国家試験対策：解剖学③（循環系）	33	国家試験対策：専門分野③（義肢装具学）
4	国家試験対策：解剖学④（内臓）	34	国家試験対策：専門分野④（老年期障害）
5	国家試験対策：解剖学⑤（筋骨格系）	35	国家試験対策：専門分野⑤（脳血管障害）
6	国家試験対策：生理学①（血液と免疫）	36	国家試験対策：専門分野⑥（呼吸器・内科疾患）
7	国家試験対策：生理学②（呼吸と代謝）	37	国家試験対策：専門分野⑦（神経変性疾患）
8	国家試験対策：生理学③（消化と吸収）	38	国家試験対策：専門分野⑧（整形外科疾患）
9	国家試験対策：生理学④（内分泌）	39	国家試験対策：専門分野⑨（精神療法）
10	国家試験対策：生理学⑤（神経系と感覚と受容器）	40	国家試験対策：専門分野⑩（統合失調症）
11	国家試験対策：運動学①（バイオメカニクス）	41	国家試験対策：専門分野⑪（気分障害）
12	国家試験対策：運動学②（顔面と体幹）	42	国家試験対策：専門分野⑫（神経症状態）
13	国家試験対策：運動学③（上肢）	43	国家試験対策：専門分野⑬（摂食障害・薬物依存）
14	国家試験対策：運動学④（下肢）	44	国家試験対策：専門分野⑭（その他の精神障害）
15	国家試験対策：運動学⑤（姿勢と歩行）	45	国家試験対策：専門分野⑮（小児科学）
16	国家試験対策：専門基礎分野①（運動発達と小児疾患）		
17	国家試験対策：専門基礎分野②（高齢者の特徴）		
18	国家試験対策：専門基礎分野③（膠原病・呼吸器疾患）		
19	国家試験対策：専門基礎分野④（内科疾患）		
20	国家試験対策：専門基礎分野⑤（高次脳機能障害）		
21	国家試験対策：専門基礎分野⑥（臨床心理学）		
22	国家試験対策：専門基礎分野⑦（心理テスト・心理療法）		
23	国家試験対策：専門基礎分野⑧（統合失調症）		
24	国家試験対策：専門基礎分野⑨（薬物療法）		
25	国家試験対策：専門基礎分野⑩（気分障害）		
26	国家試験対策：専門基礎分野⑪（神経症性障害）		
27	国家試験対策：専門基礎分野⑫（小児期の精神医学）		
28	国家試験対策：専門基礎分野⑬（パーソナリティ障害）		
29	国家試験対策：専門基礎分野⑭（その他の精神疾患）		
30	国家試験対策：専門基礎分野⑮（整形外科学）		

科目名
総合作業療法学演習Ⅱ

成績の評価方法と基準		
種別	割合	評価基準・その他備考
定期試験	100%	中間試験3回（全国統一模擬試験を含む）、期末試験で総合評価する。
レポート・課題		
小テスト		
その他		
自由記載	再試験については開講学期のみとする。	

教科書		
書名	著者・編集者名	出版社名
なし		
自由記載		

参考文献		
書名	著者・編集者名	出版社名
自由記載		

備考

科目名		授業形態	担当教員名	
パラスポーツ特論（選択科目）		講義・演習	嘉納 綾・田中 靖人	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	3 年次	後期
授業の目的・概要				
パラスポーツに関する基礎的な知識や技術を身につけ、地域に住む障がい者を運動やスポーツへと導くことができるようになることを目指す。				
授業の到達目標				
1. パラスポーツの意義を説明できる。 2. 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫を説明できる。 3. 地域におけるパラスポーツの現状を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質			
2	パラスポーツの意義と理念			
3	パラスポーツに関する諸施策			
4	パラスポーツ推進の取り組み			
5	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫（実技）			
6	〃			
7	全国障害者スポーツ大会の概要			
8	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	100%	講義終わりに行う課題の内容で評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他				
自由記載	再試験は実施しない。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
改正版 障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）	日本パラスポーツ協会 編		株式会社ぎょうせい	
自由記載				
備考				
初級パラスポーツ指導員の資格を取得できます。				